

研究論文

リオオリンピック・パラリンピック大会の教育プログラム  
—「トランスフォルマ」プログラムの可能性と課題—<sup>1</sup>

波多腰 克 晃 (スポーツ哲学研究室)<sup>2</sup>

Abstract

This study is an analysis of the education program of the 2016 Rio de Janeiro Olympic and Paralympic Games based on the literature and a field survey, in preparation for an investigation of what hosting the Olympic and Paralympic Games is meant to achieve for developing countries.

The aim of the study is to look at the education program of the Rio de Janeiro Olympic and Paralympic Games from the perspective of whether sport can demonstrate any sort of legacy in a developing country, rather than considering it as a model for the education program of the Tokyo Olympic and Paralympic Games, in order to clarify in part the construction by Japan of education programs for developing countries. It was shown that students may have had an increased desire for learning and new programs were developed through the involvement of education in sport. At the same time, however, it became apparent that no major new projects have started and redevelopment is at a standstill, due in part to unstable cooperation between the federal government and state and municipal authorities.

抄録

本研究では、オリンピック・パラリンピックの開催によって開発途上国に何が実現されようとしているのか検討するための準備として、2016年リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック競技大会の教育プログラムについて、文献と現地調査に基づいて分析した。

リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック教育プログラムを東京オリンピック・パラリンピック競技大会の教育プログラムのモデルとして位置付けるのではなく、開発途上国においてスポーツはいかなるレガシーを示すことができるのかという視点から捉えることによって、日本における開発途上国に対するスポーツ教育プログラムの構築の一端を明らかにすることを目的とした。スポーツと教育がかかわるなかで、生徒の学習意欲向上の可能性や新たなプログラムの展開が示されたが、その一方で連邦政府、州、市の連携が不安定要素となり、大きなプロジェクトが始動せず、再開が停滞している現状が露呈した。

---

<sup>1</sup> Potential and issues of the Transforma education program of the Rio Olympic and Paralympic Games

<sup>2</sup> Hatakoshi Katsuaki

Key Word: Education program of the Rio de Janeiro Olympic and Paralympic Games, intangible legacy, Transforma, Impulsiona (Impulse)

キーワード：リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック教育プログラム，無形のレガシー，トランスフォルマ，インプルシオーナ

## 1. はじめに

本研究の主たる目的は、荒牧の研究に代表されるオリンピック・パラリンピック・レガシーの無形のレガシーとしてオリンピック教育に焦点をあて、知見を補足することにある<sup>1)</sup>。

オリンピック・パラリンピック・レガシーについて検討する場合、有形・無形に分けて考察される。一般的に有形のレガシーには、交通機関の整備や建築物などインフラ整備、都市計画、スポーツ関連施設などが挙げられる。他方、教育、ボランティア、記憶、経験、悪評などは無形のレガシーとして理解されている<sup>2)</sup>。また、荒牧が指摘しているように、有形のレガシーが重視される背景には、無形のレガシーの存在が認識されており、無形のレガシーが有形のレガシーを支える原動力になっているという<sup>3)</sup>。さらに、キャッシュマンは、「レガシーは、スポーツイベント運営が話題になって以来、積極的に計画されたスポーツイベントの開催および持続的・長期的管理に伴う全体的な利益と影響を反映したコンセプトとして進化してきた」<sup>4)</sup>と言及しているように、オリンピック・パラリンピックにおける有形のレガシーは持続的・長期的なスパンとして捉える必要性があり、それを支える無形のレガシーもまた、持続的・長期的なスパンのなかで捉えなければならないはずである。

リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック競技大会（以下、リオオリンピック・パラリンピックと表記）の無形のレガシーを「持続的・長期的」に捉えようとする試みは、2012年6月に開催された「国連持続可能な開発会議（リオ+

20）以下、リオ+20と表記」の取り組みとの類似性を想起する。リオ+20はその後、ミレニアム開発目標（MDGs）に統合され、8つの目標のうち、日本は「持続可能な開発と貧困の撲滅」に大きな役割を果たしていくことが期待された<sup>5)</sup>。そして、現在その後継として持続可能な開発目標（SDGs）が注目されている。2000年から2015年までの国際開発目標として掲げられたMDGs、2012年、持続可能な開発を実施するための具体的な措置を載せた成果文書を採択したリオ+20、そして、それらを引き継ぎ2030年までに貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和社会など、持続可能な開発のための17の目標を掲げたSDGsを鑑み、この間に二つのメガスポートイベントを実施し、有形のレガシーとしてのスポーツ施設、インフラ整備を果たしたリオデジャネイロ市（以下、リオ市と表記）、リオデジャネイロ州（以下、リオ州と表記）、ひいてはブラジルに注目するならば、それらを下支えしている無形のレガシーが果たす役割は無視できない。

以上の点を踏まえると次の視点が浮上する。「無形のレガシーとしてのオリンピック・パラリンピック教育を下支えとした有形のレガシーの持続可能な開発と貧困撲滅に対して日本はいかなる役割を果たすことができるのか」ということである。とはいえ、ここから、リオオリンピック・パラリンピックの教育プログラムについて調査・研究し、東京オリンピック・パラリンピックのモデルケースとしてのみ、その意義を見いだそうというのではない。むしろ、「リオオリンピック・パラリンピック教育プログラム」の展開を理解することは、日本の開発途上国に対する「スポーツによる平和へ

の寄与」に役立てることができると同時に、オリンピック憲章のオリンピズムの根本原則にある「オリンピズムの目標は、スポーツを人類の調和のとれた発達に役立てることにあり、その目的は、人間の尊厳保持に重きを置く、平和な社会を推進することにある」という記述の具現化を示すことになる。つまり、無形のレガシーとしてのオリンピック教育に目を向け、殊、オリンピック・パラリンピックの教育プログラムが有形のレガシーの下支えとなる役割を果たすのかという点に注目する。たとえば、リオオリンピック・パラリンピックの無形のレガシーに「トランスフォルマ」という教育プログラムがある。

そこでリオオリンピック・パラリンピックの教育プログラム「トランスフォルマ」に関する先行研究を検討すると、限られた範囲にとどまっていることが確認される。代表的な研究として荒牧の研究がある。また、笹川スポーツ財団の報告書に一部「トランスフォルマ」に関する内容を確認できる<sup>6)</sup>。いずれにしても、「トランスフォルマ」について詳細に検討されたものではない。とはいえ、荒牧によって明らかにされた「トランスフォルマ」プログラムの、生徒のリーダーシップ（ユース・エージェント）が取り上げられており、生徒が生徒に支援をする「トラスフォルマ」プログラムの重要な要素に触れている点は注目にあたいする。本研究もこれについて触れることになる。また、笹川スポーツ財団の報告書も本研究を始めるにあたり、大いに役立つ資料として位置づいている。以上、2つの研究成果を踏まえ本研究は「トランスフォルマ」の実態に接近していくことになる。

## 2. 研究の方法

本研究では、文献調査を主軸として、2017年3月4日～9日、2017年11月21日～27日にかけて行ったリオ市における現地調査結果を補完的に交えながら<sup>7)</sup>、「トランスフォルマ」がどのようなかたちで行われ、教育現場への影響がどのよ

うに表れたのか確認する。文献調査だけに頼らず現地調査を行った理由は、現地のオリンピック・パラリンピックに携わった関係者から資料を入手する目的と、文献資料ではあまり触れられない側面の情報を集め、今後の調査に活かすためである。

現地調査に際しては、オリンピック・パラリンピック会場やインフラ整備された付随する再開発地を見学した。インタビューはリオオリンピック・パラリンピック組織委員会の教育部門を担当し、企画・実行・評価に関わり、現在も関連業務に従事しているヴァンデルソン・ベルパーチ Vander-son Berbat 氏とリオ州の戦略的発展にかかわる仕事に従事しているリオ州立法議会議員のジェイザ・ロシャ À Sra. Geiza Rocha 氏に対して、1時間半程度の半構造化インタビューを行った。また、資料の提供も受けた。インタビューはポルトガル語の通訳者兼翻訳者のアナ・リーガ Anna Ligia Pozzetti de Abreu 氏を介して行った。半構造化インタビューの主な項目は、「オリンピック・パラリンピック開催前のオリンピック教育の現状」、「オリンピック・パラリンピック開催中のオリンピック教育活動の実施と成果」、「オリンピック・パラリンピック開催後のオリンピック教育に関する展開、または今後予想される活動」、「オリンピック・パラリンピックと平和活動について」とした。文献資料に関連するものとして2017年までにweb上で取り上げられた「トランスフォルマ」に関する記事を確認した。記事の内容は、翻訳者を介して確認した。

なお、本研究は日本体育大学倫理審査委員会の承諾（承認番号：017-H106）を得て行った。

## 3. 「トランスフォルマ」立ち上げの経緯

ヴァンデルソン氏<sup>8)</sup>は『2016年リオデジャネイロ・オリンピック：素晴らしい国土、素晴らしい国民、素晴らしいインスピレーションをオリンピック教育に向けて結集』と題して「トランスフォルマ」に関する報告書をまとめている<sup>9)</sup>。以下、

この報告書をもとにリオオリンピック・パラリンピックにおける教育プログラムについて概観していく。

周知のとおり、夏季または冬季のオリンピック・パラリンピック競技大会の開催都市はいずれも、オリンピック・パラリンピック教育プログラムの開発に尽力することとなっている。そして、これまでの夏季オリンピック・パラリンピック競技大会開催都市はおおよそ、経済的に安定したその国の主要都市で開催されてきた事実がある。ところが、リオオリンピック・パラリンピックは、従来とは違う状況下において実施せざるを得なかった。歴史上初めて、南米の国において夏季オリンピック・パラリンピックの開催国となり、この事実が革新的なアプローチへの期待をもたらした反面、この大会が多方面にわたって課題に直面していたことは、マスメディアを通して知れ渡っていた<sup>10)</sup>。

こうした課題に直面していたにもかかわらず、リオオリンピック・パラリンピック組織委員会の教育プロジェクト委員会は、オリンピック・パラリンピック開催地以外の地域にも、オリンピック・パラリンピックが教育に与える影響を拡大して、ブラジル全土の教員、生徒および学校に恩恵をもたらす必要があると判断し、「変革する力としてのオリンピック・ムーブメント」によって人類の発展に寄与しようという提案がなされた。

この「変革する力としてのオリンピック・ムーブメント」は以下の4つの原則が定義され、その下でリオオリンピック・パラリンピック教育プログラムの全体的な概念、妥当性の評価、拡大のためのプロセスを実働させた<sup>11)</sup>。

- ①全国規模のプログラムを提供する
- ②ブラジルのプライマリー・スクールおよびセカンダリー・スクールに適したプログラムを開発する
- ③ブラジルにおけるオリンピック教育のレガシーとしてプログラムを強化する
- ④社会全体でオリンピックに関わりを持つため

の重要なツールとして当該プログラムを活用する

これらの原則に基づいてリオオリンピック・パラリンピック組織委員会に承認を得た後、これまでの諸外国におけるオリンピック・パラリンピック教育プログラムを検証し、ブラジルの学校に適応可能な実践内容について検証した。この段階で考慮された事柄は以下のとおりである<sup>12)</sup>。

- ①ブラジルのプライマリーおよびセカンダリー教育システムの89%は公立かつ無償であること
- ②当該ネットワークには19万校、生徒5千万人、教員240万人超が含まれること

これらの数字の実情に基づいて、体育教員のための運動の実践方法とその他の教科の教員を対象とした専門的な研修をどのように実施すべきか、という観点を考慮に入れつつ、ブラジル社会の根深い経済的格差等を、幾度となく検証する必要があったとされている。

まず、2013年、リオ市のさまざまな社会的状況を背景とした地域の公立校15校から体育教員および教育コーディネーター<sup>13)</sup>が集まり、ひとつのグループを結成し、リオオリンピック・パラリンピックの教育プログラムの概念形成に参加した。過去にIOCから提案されたOVEP(オリンピック価値教育プログラム)の教育に関する原則に基づき、リオオリンピック組織委員会の教育委員会の技術指導の下、当該グループは「教育的戦略」と呼ばれる文書をまとめ、これが「トランスフォルマ(変革)」の土台となった。

このようにしてリオオリンピック・パラリンピックの教育プログラム、すなわち「トランスフォルマ」が形成されたのである<sup>14)</sup>。「トランスフォルマ」は教員向けの教育研修コースの準備、各種授業向けに教育資料の提供、そして、全国を対象とした学校間での課題を推進して多方面にわたるコミュニティを活性化させることを達成目標とした(表1)。

リオオリンピック・パラリンピック組織委員会



表1. 「トランスフォルマ」プロジェクトの3つの展開

実施年	計画内容
2012年～2013年	どのようなプロジェクトにするのか、リオ市の15の小・中学校を招聘し、一緒にプロジェクトについて考え、確認や調整を行った。
2014年～2015年半ば	プログラムが実際にどのように機能するか確認するステップに移った。その間にはリオ州まで広まり、200の学校において実験的に実施した。
2015年半ば～2016年9月	ブラジル全体、そしてラテンアメリカ、スペイン語圏・ポルトガル語圏の国にも広めた。つまり、国際的なステップとなった。

バンデルソン氏のインタビューより波多腰が作成。

はブラジル教育省と技術パートナーシップを締結し、2016年リオオリンピック・パラリンピックの視聴を望むすべての学校がweb上で遠隔教育プラットフォームを活用し、「トランスフォルマ」を活性化させていった。また、リオオリンピック・パラリンピック組織委員会は、教材などをデジタルフォーマットで準備し、体育教員および他教科の教員に提供した。これにより、教員たちはオリンピック・ムーブメント関連の学習を進めることが可能となり、生徒たちの興味をよりいっそう喚起する授業を行うことができたと言われている。

より多くの学校を「トランスフォルマ」に参加させるための戦略として、コミュニケーションツール兼マーケティングツールとしてのソーシャルメディアの活用が挙げられ、これにより、オリンピックのさまざまな価値を体験、また、アスリートたちの実体験をもとにした教材を身体教育の分野として広めることができたと言われている。地理的理由、あるいは金銭的理由でオリンピック・パラリンピックの観戦が難しい生徒であっても、「トランスフォルマ」による教育研修を受けた教員が、オリンピック・パラリンピックの価値と活動内容について授業準備することで、オリンピック・パラリンピックの開催前、開催期間中、さらにその後でも、生徒たちをオリンピック・ムーブメントに夢中にさせたことが強調されている。そして、「トランスフォルマ」の活動の一つとして当該プログラムに参加したブラジル全土の240人

の教員および生徒を、聖火ランナーに任命させ、オリンピック・ムーブメントの機運を高めたことを特徴付けることができる。

#### 4. レガシーとしての「トランスフォルマ」プログラム

##### 4-1. ヴァンデルソン氏の報告書及びインタビュー調査

前述ではヴァンデルソン氏の報告書に基づいてトランスフォルマを概観した<sup>15)</sup>。1万6千校、生徒900万人超、ブラジル全27州に至るまでに貢献できた重要な要素として、

- ①原則を明確に定義すること
- ②当該プログラムの参加者が無理なくオリンピックとかわらせた授業計画を作成できること
- ③ソーシャルメディアを利用したコミュニケーションをとること
- ④当該プログラムに参加した教員に、自信と責任をもってオリンピックを自分たちの学校に取り入れさせることを報告している<sup>16)</sup>。

今後の課題としてヴァンデルソン氏が掲げていることは、2020年東京オリンピック・パラリンピックとのかかわり、つまり、「つながり」をもつことであるとしている。それは、スポーツを通して道徳的なことを学び、人間としての価値に関



図1 「トランスフォルマ」に参加した市及び学校の数

する話にもつながることができると考えている<sup>17)</sup>。また、サッカー人気が根強いブラジルにあっても、サッカーだけではなく、ラグビーなどの他のスポーツに対する興味、認識が高まるように活動することや、他のスポーツを学ぶことにより他の国の文化を学ぶことができる「つながり」によって、より積極的に、学校においてスポーツに取り組んでもらうことが挙げられる。特に先住民のスポーツについて学ばせる機会を提供できるような教材を提供することが今後の課題として挙げられていた。しかしながら、すべてが成功裡に展開されたわけではなかった。直接「トランスフォルマ」プロジェクトとは関わりを待たないが、教育レガシーという視点からすると、問題点が浮上する。リオ市にあるバーラ地区のオリンピック公園内にあるカリオカ・アリーナ第3ホール（図2）がス



図2 カリオカ・アリーナ第3ホール

ポーツ専門学校として利用されること、フューチャー・アリーナ第4ホール（図3）は小学校や中学校として利用されるはずであった。ヴァンデルソン氏はインタビュー調査のなかで、「当初の予定では公園内の施設は60%～70%を競技施設として利用し、その他の施設は学校として利用する予定であった」と説明している<sup>18)</sup>。しかし、財政難となり、このプロジェクトは進んでいない。

#### 4-2. リオ州立法議会議員のジェイザ氏のインタビュー調査

ジェイザ氏はジャーナリストであり、リオ州立法議会議員でもある。現在、リオ州の戦略的発展のフォーラムを担当している。リオオリンピック・パラリンピックはリオ市の発展の大きな機会であり、どのようなレガシーが考えられるか、また教育について検討する立場でオリンピック・パラリンピックに携わっていた。教育に関しては、特にリオ市を担当した。

ブラジルは、2008年から2016年にかけてオリンピック・パラリンピックのみならず、サッカーワールドカップ、リオ市ではパンアメリカン競技大会、その他ブラジルではミリタリースポーツ大会、ワールドイヤースデイも行われた。たしかにそれらは、オリンピック関連ではないが、それらの大会を通じて「多くの若者達がかかわることができる可能性」を示唆していた。そのための取り組みとして、まずは、若者達がボランティアにな



図3 フューチャー・アリーナ第4ホール

るための英語学習プログラムを展開した。さらに、その若者達の家族に英語学習を実施した。

英語学習プログラムの展開ではリオ州の教育局のサポートを得ながら、「セブライ」という中小企業支援サービス機関を通して行われた。オリンピック・パラリンピックもこの機関を通して中小企業がどのように関わることができるのか、「オリンピック・パラリンピックと企業とのかかわり」について取り組んだ。しかしながら、リオ市を中心に大会が開催されたため、リオ州とその他92の市に利益や教育プログラムを提供することに努めたが、それほど効果はなかったと指摘している。

また、フォーラムではアテネの大学の教員による講演を通じて、教育の重要性が説明される機会もあったが、ブラジル政府のサポートを得られなかった。

現在、栄養学を教育と位置づけ、教育レガシーとしての栄養学の重要性について検討している。地域で栽培した作物をできるだけ学校の給食に提供することによって、栄養について考えるきっかけを与えている。これは継続して行われたが、やはり、教育のレガシーの成果は10年以上かかると認識している。

#### 4-3. 「トランスフォルマ」プログラムのレガシーとしての可能性

ジェイザ氏は、大きな計画の必要性を訴えている。ブラジルの大学は連邦政府の管轄、高校は州の管轄、小中学校の管轄は市となっている。それゆえに、この3つの機関の連携が今後より一層重要になると考えている。さらに、ブラジルにはスポーツ省があるが、重要な役割を果たさなかったことが大きな問題の一つだと考えている。そして、リオ市はインフラ整備に傾注しすぎたために、教育レガシーについて重要視しなかったことによって継続しなかった。

いくつかの問題点が指摘されたりオオリンピック・パラリンピックであったが、ジェイザ氏によれば「トランスフォルマ」プログラムはうまくいっ

たプロジェクトだったと認識している。特にリオ市はブラジルの中でも、もっとも公立の学校が多い場所で、その中で活動は、さまざまな問題を抱えていたはずだが、将来性のある活動と捉えている。

ブラジルの教育に関しては連邦政府が予算を持っている。しかしながら、不正などがあるので連邦政府からの交付金が配分されないということもある<sup>19)</sup>。さらに、過去10年のブラジルのプロジェクトについても、学校に通っている子ども達は多いが、教育の質が悪いと言われている。そして、以前から指摘されていることではあるが、高校生が継続的に学ぶための、何年も続いているプロジェクトがあるが、機能していない現状がある。本来は、連邦政府、州、市が連携してプロジェクトを進めるべきである。ブラジルは、歳出総額の25%を教育に当てられているが、不正がはたらき、まったく使われていないという現状も指摘している。

小学校は義務教育であり、奨学金もあるため、不登校などの問題はほとんど起きない。しかし、公立校では進学しない生徒がいる。現状、高校生の年齢の若者が仕事もしない、学校も行かないという若者が増加している。特に高校に関してはポリシーや政策がない。サポートされていない問題を指摘している。注目すべきは、低所得の家庭に対するサポートが出来る場所が学校にもかわらず、そもそも高校進学しないので、利用しないという現状がある。

国公立の学校で体育の時間を削減する方向が検討されている。生徒たちは、体育の時間は休み時間という認識がある。ただ単に、男子にボールを渡してサッカーをさせる。女子はそれを観ているというような体育が多い。私立では体を動かす重要性や体を動かすことによって勉強ももっときちんとできるということが教育されている。「トランスフォルマ」の活動の一環として、「体育は休み時間」という認識を変える取り組みがなされていた。しかしながら、ブラジル全体ではスポーツ



表2. ポルヴィールのHPに記載されていた「トランスフォルマ」プログラムに関する掲載記事

トピック	なし
<p>教育とスポーツの間には深い関係があり、体育だけでなく、その他の教育にも様々な機会を展開していくことが可能であると考えられ、教員や生徒も知識を幅広く獲得することが期待される。</p>	
トピック	なし
<p>「トランスフォルマ」プログラムは2013年にスタートした。最初はパイロット学校において着手され、当時はリオ市の15の学校のみが参加していた。現在(2016年6月)は約1万校が参加し、ブラジルの26州と首都のブラジリアに広がった。パイロット学校が選ばれた時点では、体育教員のみ申し込みがあった。しかし、体育のみに当てはまるプログラムとして生まれたプロジェクトではなかった。</p>	
トピック	なし
<p>ヴァンデルソン・ベルバーチ氏によると、「このプログラムは子どもたちの社会的・情緒的発達を促すためであり、すべての教科の教員が参加することができる。実は、スポーツに特化したプログラムではない、オリンピックというイメージをどの授業でも利用することは可能である」。ベルバーチ氏によると、「トランスフォルマ」は各学校が自由に利用できるツールである。参加するには、プロジェクトのHPにアクセスし、教材、ビデオ等を利用し始めることができる。</p>	
トピック	オリンピックとパラリンピックの価値観
<p>プログラムの大きな目的は、オリンピックとパラリンピックの価値観を生徒たちに理解してもらうことである。ベルバーチ氏によると、オリンピックの価値観には「敬意・卓越性・友情」があり、パラリンピックには「平等・インスピレーション・決心・勇気」などがある。ベルバーチ氏は「トランスフォルマ」を通じて、このような価値観が学校にどのように導入されたのか、次のように説明している。「このような価値観を学校に導入する場合には教育的に意味のある言葉に訳さなければいけない。そのため、5つの教育的価値観の定義は：体・意志と心のバランス・努力に対する喜び・卓越性を追求する・フェアプレーと他人を尊敬する」という言葉が用い入れられた。</p>	
<p>リオ州ジャカレバグア市のセージSESI学校の体育教員であるファビオ・ジオニージÓdio Dionizio氏は、オリンピックの価値観と生徒たちの日常生活とを比較する。ジオニージ氏は「生徒たちは学校内外での態度や人間関係をよく考えるようになり、いじめをなくそうとする取組にも貢献していると思う」と述べている。</p>	
<p>セージの中学3年生(ブラジルでは9年生)のナタン・ロシャNath da Rocha氏はオリンピックの価値観に対する意見がはっきりしている。「授業で勉強するオリンピックの価値観によると、いつでも他人を尊敬しなければいけないということが分かるし、フェアプレーを守り、仲間を尊敬し、試合や大会の目的を理解しなければいけない。負ける日もあれば、勝つ日もあるということを理解しなければいけない」ということがわかると述べている。上記の価値観を授業中に取り上げることによって、次のようなことがもたらされるとベルバーチ氏は提案している。「運動会を行ったり、選手や元選手の親を勉強したり、学校の環境をより良くすることにより、出席率も高め、いじめを予防することもできる。人間の多様性を尊敬し、生徒の自尊心を高め、努力に対する喜びを喚起させる」ということである。</p>	
<p>各活動の終わりに、教員のディスカッションを行うことが大抵だとベルバーチ氏は述べた。「経験したこと、または勉強したことについてどのような教訓があったのか、どのようにその活動が勉強になったのかなどを話し合うことが大事である。教員は、生徒の話の中に出てくるオリンピックの価値観を強調していく役割がある」。</p>	
トピック	生徒リーダー(ユース・エージェント)
<p>「トランスフォルマ」は生徒たちには情報を受け取る伝統的な役割だけでなく、自らがエージェントとして、受け取った知識を同級生たちに広める役割も担うことが重要だと考える。</p>	
<p>リオ市のテネンテ・ジェネラル・ナビオンTenente General Napolion学校のルシア・エレナ・デ・ソウザLucia Helena de Sousa校長先生が述べるように「規律正しくない生徒や、いつもけんかを起していた生徒を生徒エージェントとした。つまり、良いアイデアと良い例を見せるリーダーたちにした。」このように、生徒たちをリーダーにすることにより、日常の態度だけでなく、テストの点数などにもインパクトがあり、授業の出席率も高くなったし、図書館の利用率も高くなったと述べている。</p>	
トピック	実践・実践と役割の変動
<p>体育教員の役割は休み時間の担当から中心な役割を担って、体育の時間に新しいスポーツを紹介し、授業のイノベーションを促す必要性が発生した。そして、即席の考えや創造力を生かすことが大きな力になっている。ジャカレバグア市のセージ学校のハケル・ロペス・アウグストRaquel Lopes Augusto先生は「授業で新しいスポーツを学ぶときに利用する道具はリサイクル品や代替の材料を使ったり。例えば、新聞、ペットボトル、段ボール、放棄、砂、縄、竹、PVCチューブなどを利用して工夫すること」を強調している。</p>	
<p>サンパウロ州ジュンジャアイ市のルイス・ビエラ・ソウザLuiz Biella Souza市立学校では同じイニシアチブがあった。体育教員のヴァルテル・デ・アルメイダ・モイゼス・ネットValter de Almeida e Moizes Neto氏は「スポーツをするために必要な道具を作るのが先生と生徒に対して大きなチャレンジとなり、結果としてはとても良かった」と述べている。</p>	
<p>新しいスポーツの中でもパラリンピックのスポーツに挑戦することもある。セージ学校はシッティングバレーボールに挑戦した。セージの6年生モニテリ・フォルネリMonirhelly Forte氏は「シッティングバレーボールをトライしてとても楽しかったし、共感することができた」と述べている。また、「仲間と一緒にゲームになるのは楽しいし、歩けない人の気持ちも理解することができた」とも述べている。</p>	
トピック	学際的な教育
<p>様々な実験ができる「トランスフォルマ」プログラムは、すべての教科にオリンピックのテーマを含めるように教育コーディネーターたちに提案をした。全教員が授業で使う事例などにスポーツを含めるようにすることがポイントであった。物理学、理科、数学に利用できるテーマでもある。例えば、競技場はどのように作られるのか、そしてその工程には防水加工も必要であるということが説明できる。選手たちのユニフォームに利用される材料はどのように湿気を避けることができるのか、または、F-ビングにより選手の体にはどのようなインパクトが発生するのか、そしてその機会を利用して道徳的な説明も含めることができる。それに、サッカーやバスケットボールに関する物理学や統計の説明も可能となる。</p>	
<p>ジャカレバグア市のセージ学校の数学の教員、グロリア・ルナGloria Luna氏は、授業中に数学とスポーツを関係づけた。様々なスポーツ、選手、建設された競技場、リオ市の観光地、コストなどを利用し、表やグラフを作りながら授業を始めた。</p>	

出典：ポルヴィールのHP <http://porvir.org/projeto-transforma-leva-esporte-para-todas-aulas/> 参照日2017年12月21日



表3. その他「トランスフォルマ」プログラムに関する掲載記事

掲載場所	パラリンピックオフィシャルサイト: <a href="https://www.paralympic.org/news/rio-2016-invites-students-transforma-programme">https://www.paralympic.org/news/rio-2016-invites-students-transforma-programme</a> 参照日2017年12月21日
トピック	なし 2016年8月31日付
「トランスフォルマ」とリオデジャネイロ州政府が公立学校の生徒に無料でオリンピックの試合を見るためのチケットを提供した。チケットだけでなく、交通費とお弁当も提供された。	
掲載場所	Qeдат教育に関する統計的データ及び指標を提供する民間機関: <a href="http://blog.qedat.org.br/blog/2016-03-08/o-que-o-qedat-e-os-jogos-olimpicos-e-paralimpicos-de-2016-tem-em-comum-a-sua-escola/">http://blog.qedat.org.br/blog/2016-03-08/o-que-o-qedat-e-os-jogos-olimpicos-e-paralimpicos-de-2016-tem-em-comum-a-sua-escola/</a> 参照日2017年12月21日
トピック	スポーツフェスティバルに関する情報 日付なし
「トランスフォルマ」プログラムが様々なスポーツフェスティバルは2014年から2016年末までに行われるイベントであり、リオ市の様々な地区で行われる。一日中オリンピックとパラリンピックのスポーツが行われ、そのルールや価値観などを説明する。誰でも参加でき、無料である。イベントは「トランスフォルマ」と各スポーツ連盟・協会とのパートナーシップで行われた。目的はリオデジャネイロ市全体のオリンピック機運が高まること、新しいスポーツを一般市民に紹介すること、ヴァンデルソン・ペルバーチ氏が説明した、有名な選手とマスコットも必ず参加する。	
掲載場所	Qeдат教育に関する統計的データ及び指標を提供する民間機関: <a href="http://blog.qedat.org.br/blog/2016-03-08/sua-escola-topo-esse-desafio/">http://blog.qedat.org.br/blog/2016-03-08/sua-escola-topo-esse-desafio/</a> 参照日2017年12月21日
トピック	チャレンジ(Desafio Transforma)に関する情報 日付なし
<p>「Desafio」(Desafio: チャレンジ・挑戦) は、「トランスフォルマ」が行う学校対抗の競争である。オリンピックとパラリンピックの価値を生かすのが目的である。下記にいくつかの例がある。</p> <p>1. フェアプレーのチャレンジ 最初のチャレンジのテーマは「フェアプレー」であった。試合では、選手たちは他人を尊敬し、倫理的に行動をしなければならない。優勝するには他人への敬意が必要である。そのコンセプトをもとにして、学校は4つのテーマで活動を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「環境とのフェアプレー」: 学校またはその周辺にある緑を守る活動を行う。例えば、掃除をする</li> <li>2) 「学校のスペースとのフェアプレー」: 学校で壊れているものを修理する等</li> <li>3) 「他人とのフェアプレー」: 学校生活をより良くするためのルールを作る等</li> <li>4) 「スポーツでのフェアプレー」: 試合において、相手に敬意を払うこと等</li> </ol> <p>2. 連帯感を表すためのチャレンジ ボランティア活動を行うことにより、教員、生徒と地域社会の方を近づけることが目的であった。例えば、愛の毛の寄付をした学校や病院で演劇をする学校もあった。</p> <p>3. マスコットは自分の町を紹介するチャレンジ オリンピックのマスコットに自分たちの町を紹介するために写真をとる活動であった。優勝した学校にはサッカーの旗をプレゼントして、マラカナンMaracanãスタジアムの見学などが行われた。</p> <p>4. 応援ソング ブラジルを応援するために音楽を作るチャレンジであった。優勝した学校の音楽は「トランスフォルマ」のイベントで紹介され有名選手たちも歌った。</p> <p>5. パーチャール・トーナメント 「トランスフォルマ」の旗でパーチャール・トーナメントが行われた。各学校がいろいろな材料を利用してトーナメントを作り写真をアップロードした。</p>	

と教育に関するいくつかのプロジェクトがあっても、成功しているプロジェクトは一部であり、大きなプロジェクトとなると皆無に等しい。対照的に、小さなプロジェクトはうまくいっている。たとえば、市が中心となって立ち上げたプロジェクトは機能していることもある。

市の計画の一つとして、オリンピック公園内のアリーナの再利用・再開発が計画されていた。しかしながら、市が財政難のため、プロジェクトは停滞した。しかし、オリンピック公園は、市が担当した部分と連邦政府が担当した部分がある。いづれにしても話は進んでいない状況にある。

公園の再開発担当者によると、できるだけ早く、市民が利用できるようにさせたいし、イベントを開催できるように取り組んでいる。その他に、スポーツ博物館がオリンピック公園内に作られていると言う話もあるが、徐々に進んでいる。

## 5. 「トランスフォルマ」に関する記事

### 5-1. ポルヴィール Porvir の HP より<sup>20)</sup>

オリンピック・パラリンピック教育としての「トランスフォルマ」はどのように理解されていたのか、関連諸機関のホームページを確認した。「トランスフォルマ」は体育だけでなく、多くの専門分野(科目)を通して学校内のオリンピックに対する価値観の展開を推進させるプログラムであると紹介されている(表2)<sup>21)</sup>。また、生徒が生徒に対して情報を広めるユース・エージェンツ制度は日常生活の態度に変化をもたらしただけではなく、授業の出席率の向上や、図書館の利用率の向上にも貢献した。

### 5-2. ブラジル連邦政府の HP<sup>22)</sup>

ブラジルの教育省が「トランスフォルマ」をサポートすることが決まったという記事である。

教育省とのパートナーシップにより、700万人の教員たちに「トランスフォルマ」のインパクトを広めることができるということを強調されている。当時は100万人の教員だけに届いていた。また、遠隔教育プラットフォームによって教員に対して教材を提供することも可能となった、と指摘していた。

ヴァンデルソン氏によると、競技のシンボルであるトーチャや輪を利用して平和を推進する活動や生徒たちの友情を高める活動も可能となる。

学校での活動以外、当プログラムはスポーツフェスティバルも行う。ラグビー、グランドホッケー、アーチェリー等、普段行わない新しいスポーツを市民に開放した。

## 6. 「トランスフォルマ」プログラム後の報告書

リベイロは『教育的レガシーの分析：Rio2016のトランスフォルマプログラム』と題してプロジェクトに関する調査報告書をまとめている<sup>23)</sup>。この報告書は、「トランスフォルマ」プログラムに参加した教員およびその他の教育コミュニティメンバー等の観点から教育的レガシーを評価する目的で行われた<sup>24)</sup>。2016年のオリンピック開催時にデータが収集され、そこから「トランスフォルマ」によって、①新しい経験を得ること、②教育の質が得られることの二点を結論づけている。新たな経験を得る機会、つまり、オリンピックとパラリンピックの価値観を実際に体験すること、そして、新たなコンセプト（オリンピック精神やオリンピックスポーツ等）を得ることは、「トランスフォルマ」が実施された学校において、正の教育的レガシーに寄与したと結論づけている。調査に参加した教員によって、新しい経験を重ねることとオリンピックとパラリンピックの重要性を経験することはポジティブな教育的レガシーとなったとされ、さらに、調査に参加した教員たちによると、「トランスフォルマ」を通して学校に

新しいコンセプト（オリンピック、オリンピックのスポーツ、オリンピズム等）が導入されたということも、特にポジティブに評価され、オリンピック・パラリンピックに関する教育に大きく貢献したと評価された。しかし、リサーチ面、つまり新たな研究を開発、または「トランスフォルマ」を通して、新しい商品またはサービスを生み出すことができた、ということに関しては、大きな影響はなかったと分析されている。

## 7. 「トランスフォルマ」の後継としての「インプルシオーナ」<sup>25)</sup>

「インプルシオーナ」Impulsionaはペニンシュラ研究所 Instituto Penínsulaのスポーツに関する教育プログラムとして、「トランスフォルマ」の引き継ぎ、スポーツを通して生徒の学びを推進するためのツールである。スポーツを通して子どもの社会的・情緒的発達を図り、活発な生徒たちを育みながら新たな学校を構築することを目的としている。つまり、学校生活のあらゆる場面において運動の要素が含まれる仕組みを構築することであり、それによって、生徒自らが、健康で活発的なライフスタイルを継続的に推進していくサポートを目的としている。

当プログラムは学校とのパートナーシップにより、小学校から高校までの生徒が、新しいスポーツを体験することが可能となっている。ただし、私立学校の参加は制約されているため、原則的には公立学校のみである。プログラムの手順は講義

表4. インプルシアが提供する内容

学校で新しいスポーツを行うためのインセンティブを与える
子どもの社会的・情緒的発達を図る
学校におけるスポーツの文化的価値を強化する
e-learningと対面教育
ワークショップで体育教員が新しいスポーツを学ぶ機会
授業を充実させる指導書

バンデルソン氏のインタビューより波多腰が作成。

表5. インプルシオーナ・プログラムに関する掲載記事

掲載場所	Portal MM (ミナス州の市立団体のHP) <a href="http://portalamm.org.br/programa-impulsiona-educacao-esportiva-nas-escolas-mineiras/">http://portalamm.org.br/programa-impulsiona-educacao-esportiva-nas-escolas-mineiras/</a> 参照日2017年12月21日
トピック	なし
「インプルシオーナ」プロジェクトは、子どもの社会・情緒的発達を促す新しい経験、誠実性、外向性、優しさ、情緒的安定性を発展させるためにスポーツを利用する。2017年8月11日	
掲載場所	Pronatec(技術および雇用のための学習に関する国家プログラム) <a href="http://pronatec.pro.br/programa-impulsiona/">http://pronatec.pro.br/programa-impulsiona/</a> 参照日2017年12月21日
トピック	なし
「インプルシオーナ」の目的は2017年まで約1万校で利用されることであり、2020年までには3万学校に広げることである。日付なし。	
掲載場所	Nova Escola(教員や教育に関わる人たちに高品質の情報やサービスを提供するNPO法人) <a href="https://novaescola.org.br/conteudo/5081/vagas-e-opportunidades-com-recursos-gratuitos-instituto-peninsula-quer-promover-a-educacao-fisica">https://novaescola.org.br/conteudo/5081/vagas-e-opportunidades-com-recursos-gratuitos-instituto-peninsula-quer-promover-a-educacao-fisica</a> 参照日2017年12月21日
トピック	なし
「インプルシオーナ」の戦略は教員を通して学校に導入されることである。プログラムに参加するのは学校からでなく、教員からである。「インプルシオーナ」が提案するのは、教育コーディネーターが教員にプログラムの説明を行い、教員を通して学校に広めることである。2017年7月13日	
掲載場所	Undime(全国自治体教育管理者連合)のHP <a href="https://undime.org.br/noticia/19-09-2017-09-33-programa-oferece-formacoes-gratuitas-para-voluntarios-do-novo-mais-educacao">https://undime.org.br/noticia/19-09-2017-09-33-programa-oferece-formacoes-gratuitas-para-voluntarios-do-novo-mais-educacao</a> 参照日2017年12月21日
トピック	なし
「インプルシオーナ」は教育省とのパートナーシップにより、オンラインプラットフォームを構築した。教育省のE-proinfoというバーチャル環境(ツール)ではオンライン教育プログラム等が作られる。オンライン講座や資料のアップロードができる。2017年9月19日	

と教科書を用いて行われ、それ以外にも学校が独自に開発する活動に対してアドバイスも行われる(表4)。

#### 7-1. インプルシオーナ・プログラム参加の方法

教員がオンラインもしくは対面教育をスタートしたり、または、ワークショップへの参加、デジタル資料のダウンロードなど、「インプルシオーナ・マラソン」(プログラムに参加している学校対学校の運動会)に参加した時点でその学校がプログラムに参加することができる。つまり、学校ではなく教員個人が参加することかどうかを決めることができる。

そのため「インプルシオーナ」のHPで毎回新しい内容、または活動があると、教員が直接通知を受け取ることができる。そして、教員が習ったことを学校で展開していく。プログラムを学校で実行するための組織および提供されるサービスは表6および表7の通りとなっている。

モニタリングと評価を行うために、当プログラ

ムはサンパウロ市とリオ市の各120校で対面ミーティングを行う。参加する学校は各市の教育局が担当し、その学校を支援する。そして、全国の学校が「インプルシオーナ」のHPにアクセスして情報を受け取ることができる。

各表に示されているように、ペニンシュラ研究所は、ブラジル人全員が充実した生活を送り、知識と選択肢を持つ機会がなければならないという理念を持っている。その意味では、人間を確実に成長させる最良の道は教育であるという立場にある。そして、スポーツは教育に付加価値を与えるツールであり、社会的・情緒的発達と人間性を高めることができるとしている。

「トランスフォルマ」と同様に、教員が利用できる教育内容はすべてデジタル資料として保存されている。ダウンロードできる教育資料例は表8の通りである。

ただし、「インプルシオーナ」は各学校の自立性と創造力を生かすことに重点を置いているため、資料を基にして教員自らが活動を進めることに重点を置いている。あくまでも、「インプルシ



表6. プログラム実施者の主な役割

教育スーパーバイザー (Pedagogical Supervisor)	一般的な先生たちのリーダーの役割。学校で当プログラムを紹介し、サポートを行う役割で教員にプログラムがどのようなサービスを提供しているのかを説明し、認知度を高める。
体育教員以外の先生	当プログラムは体育教員に集中するが、すべての学科が利用できる内容も提供する。体育教員は生徒に新しいスポーツを紹介する責任がある。
生徒リーダー (ユース・エージェント)	リーダーシップと学校の活動に取り組むレベルにより教育スーパーバイザーが選ぶ。中学一年生（ブラジルでは7年生）から高校三年生の生徒である。その生徒たちは一年間教育を受け、コミュニケーションや召集のテクニックを学び活動を行う。各学校では最低10人の生徒リーダーが必要。
教育者 (Educator)	生徒リーダーの指導を行う教員である。つまり、リーダーのミーティングを行う責任があり、プログラムの手順を基にしてすべての活動の指導を行っていく。教員以外の教育者では、サポートができる人でなければいけない。各学校で最低2人の教育者が必要。

バンデルソン氏のインタビューより波多腰が作成。

表7. 参加する学校に提供されるサービス

---

オンライン教育

(スーパーバイザー、体育教員、教育者と生徒リーダー (ユース・エージェント) 向け)

体育教員のためのスポーツワークショップ

体育以外のすべての教員が利用できる情報 (デジタル)

---

バンデルソン氏のインタビューより波多腰が作成。

表8. ダウンロードできる教育資料

---

チェスを授業中に生かす方法を教える

柔道と空手：学生たちに重要な価値観を与える

サッカーとフットサル：ブラジル人が大好きなスポーツの歴史を教える

スポーツと数学：どのように関係付けるのかを教える

国語とスポーツ：ポルトガル語（表現）がどのようにスポーツと関係しているのかを教える

スポーツとジェンダー：性差別をどのように乗り越えられるのかを教える

スポーツと文化：カポエイラなどの歴史に関する授業

スポーツとブラジルの先住民：ブラジルのインディアンがどのようにブラジルのスポーツに影響を与えているのか

スポーツと民間伝承の関係に関する授業

スポーツと物理学の関係に関する授業

どのように陸上競技を学校で発展させるのか

---

バンデルソン氏のインタビューより波多腰が作成。

オーナー」は活動の提案のみであり、義務的に実行しなければならないということではない。

体育教員はオンライン教育によって、スポーツワークショップを学ぶことができる。たとえば、ラグビー・ゴルフ・陸上競技・ゴールボール・体操・5人制サッカー・フィールドホッケーに関する内容がおおよそ40時間のコースとなっている。

以上が「トランスフォルマ」の理念を引き継ぎ現在ブラジルで展開されている無形のレガシーとしての教育プログラム「インプルシオーナ」である。

## 8. まとめ

本研究では、オリンピック・パラリンピックの開催によって開発途上国に何が実現されようとしているのか検討し、リオオリンピック・パラリンピックの教育プログラム「トランスフォルマ」の可能性と課題に注目した。

近年、オリンピック・パラリンピック教育プログラムの実施と招致活動が相俟って、具体的な教育プログラムが展開されている。強制的ではないにしろ、具体的な計画を提出する必要性に迫られたことも「トランスフォルマ」の展開の大きな一歩として位置づけられていた。そこからブラジル全土へと展開していく必要があったわけであるが、webの活用が大いに役立ったことが示された。本研究の目的は“日本における開発途上国に対するスポーツ教育プログラムの構築の一端を明らかにすること”であったが、このことは、開発途上国ゆえに、インターネット環境を整備させることの重要性を示唆している。また、「トランスフォルマ」プログラムはリオ市では主に、公立学校において展開され、一定の評価を確認することができた。学校教育現場における教育の機会均等という点からすると、公立高校と私立高校との教育格差があるなかで、公立学校の授業参加率の向上がりベイロ氏の報告のみならず、各種機関のHPに掲載された参加者の意見等にも示されてい

た。

以上を踏まえると、「トランスフォルマ」プログラムは一定の成果を得たことを示し、成功裡に展開されたように捉えられるが、課題も残された。現場における教育の新たな展開を示している一方で連邦政府、州、市の連携が不安定要素となり、大きなプロジェクトが始動せず、再開発が停滞している現状が露呈した。国の政策と市や州との連携不足以外にも、交付金が不正利用されるブラジルの社会問題が教育場面においても指摘されていた。

そうした状況にあっても「トランスフォルマ」プログラムを受け継ぎ、「インプルシオーナ」を展開しているベニンシュラ研究所の存在意義は大きい。本研究はその入り口まで確認することができたが、より詳細な検討によって、開発途上国におけるオリンピック・パラリンピック開催と教育プログラムの展開の苦悩や課題を示し、日本における開発途上国に対するスポーツ教育プログラムの構築の必要性に接近できるのではないだろうか。今後の課題である。

## 謝辞

現地調査の際にお世話になった全ての方々、とくにヴァンデルソン・ベルバーチ氏、ジェイザ・ロシャ氏、通訳翻訳のみならず多方面にわたってご協力いただいたアナ・リーガ氏に厚くお礼申し上げます。

## 注および引用文献

- 1) 荒牧亜衣 (2013) 第30回オリンピック競技大会招致関連資料からみるオリンピック・レガシー, 体育学研究 58, pp. 1-17; 荒牧亜衣 (2016) リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック競技大会における教育プログラム, 「オリンピック教育」vol. 4, 筑波大学オリンピック教育プラットフォーム p.12-13; 荒牧亜衣

- (2017) 日本におけるオリンピック・パラリンピック教育の現状と課題, オリンピックスポーツ文化研究 No. 2, pp.99-104
- 2) 無形のレガシーに関する代表的な研究として以下の文献を挙げる事ができる. 荒牧亜衣 (2013) 第30回オリンピック競技大会招致関連資料からみるオリンピック・レガシー, 体育学研究 58, pp.1-17; 株式会社三菱総合研究所, オリンピック・レガシーとは何か, <http://www.mri.co.jp/opinion/legacy/olympic-legacy/index.html> (2019年1月27日参照); 鶴田千佳子 (2017) リオオリンピック・スタディーツアーの実践報告 A Report on Tokyo University of Foreign Studies Study Tour at the Rio Olympics and Paralympics, 東京外国語大学論集第94号, pp.147-167; 鶴見瑞穂・斉藤孝信 (2017) 2020年東京オリンピック・パラリンピックへの期待と意識～「2016年10月東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査」の結果から～, 放送研究と調査第67巻第12号, pp.2-29; 鶴見瑞穂・斉藤孝信 (2018) 2020年東京オリンピック・パラリンピックへの期待と意識～「2017年10月東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査」の結果から～, 放送研究と調査第68巻第4号, pp.58-85; 原美和子・斉藤孝信 (2018) 2020年東京オリンピック・パラリンピックへの期待と意識～「2018年3月東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査」の結果から～, 放送研究と調査第68巻第11号, pp.28-57 品川区視察団 (2016) リオデジャネイロオリンピック視察; リー・トンプソン (2017) 史上もっとも成功したメディア・イベント—アメリカにおける2016年リオ五輪のテレビ放送—, スポーツ社会学研究 25-1, pp.21-33; 半澤誠司 (2018) 誰のためのリオデジャネイロ五輪であったか?, E-journal GEO vol.13-1, pp.296-311; 市井吉興 (2014) 成長戦略とスポーツ政策—観光立国・スポーツ立国・新自由主義型自由時間政策—, 立命館言語文化研究 25-4, pp.63-76
- 3) 荒牧亜衣 (2013) p. 3
- 4) Cashman, R.(2006)The Bitter-Sweet Awakening: The Legacy of the Sydney 2000 Olympic Games. Sydney: Walla Walla Press
- 5) リオ+20～持続可能な未来を創るために, 外務省 HPより, <https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/wakaru/topics/vol91/index.html> (参照日2019年3月24日)
- 6) 荒牧亜衣 (2016) p.12-13; 荒牧亜衣 (2017) pp.99-104; 沢田啓明 (2015-2019), 国際情勢ブラジル, 笹川スポーツ財団報告書, <http://www.ssf.or.jp/research/international/spioc/br/tabid/279/Default.aspx> (参照日2019年3月25日)
- 7) ヴァンデルソン・ベルバーチ, リオデジャネイロ・オリンピック組織委員会の教育委員会を担当した. 企画・実行・評価にかかわっていた. 現在はインシュツットア・ペニンソア (instituto Península) という団体に所属し, 「トランスフォルマ」を引き継いでいる. ヴァンデルソン氏のインタビューより (調査日2017年12月14日)
- 8) ヴァンデルソン・ベルバーチ, リオデジャネイロ・オリンピック組織委員会の教育委員会を担当した. 企画・実行・評価にかかわっていた. 現在はインシュツットア・ペニンソア (instituto Península) という団体に所属し, 「トランスフォルマ」を引き継いでいる. ヴァンデルソン氏のインタビューより, (調査日2017年12月14日)
- 9) ヴァンデルソン氏がIOAに提出した最終報告書, Great Continent, Great Nation, Great Inspiration toward Olympic Education from Rio 2016 Olympics (提出年月日不明)
- 10) 沢田啓明 (2015-2019), 国際情勢ブラジル, 笹川スポーツ財団報告書, <http://www.ssf.or.jp/research/international/spioc/br/tab->



- id/279/Default.aspx(参照日 2019年3月25日)
- 11) ヴァンデルソン氏が IOA に提出した最終報告書, Great Continent, Great Nation, Great Inspiration toward Olympic Education from Rio 2016 Olympics (提出年月日不明)
- 12) ヴァンデルソン氏が IOA に提出した最終報告書, Great Continent, Great Nation, Great Inspiration toward Olympic Education from Rio 2016 Olympics (提出年月日不明)
- 13) 実技研修を受講した教員がその他の教員に対して新しいスポーツの指導方法や授業の展開について支援する. ヴァンデルソン氏のインタビューより (調査日 2017年12月14日)
- 14) 「トランスフォルマ」プログラムには4つの柱があった. 1つめは学校内におけるスポーツを広めることであった. ブラジルではバスケットボール, バレーボール, ハンドボール, サッカーがおもな活動種目となっている. それ以外のスポーツは学校では教えない/教えられないのでいろいろと体験してもらうことが目的の一つであった. 2つめはリオ市だけでなく, ブラジル全体を巻き込むプロジェクトでなければならないとされた. さらに, その他の南米諸国にも影響を与えられるものでなければならないと考えていた. 3つめは学校現場を通して多くの人にオリンピックに興味をもってもらうこと. 4つめはオリンピック後も持続可能なプロジェクトであること, ヴァンデルソン氏のインタビュー調査より (調査日 2017年12月14日)
- 15) ヴァンデルソン氏の情報と若干の違いがあるが, どの学校が「トランスフォルマ」に参加しているのかを地図とデータで見せる仕組みを QEdu (教育に関する統計的データ及び指標を提供する民間機関) のホームページで公開していた. 当時は 2064 市の 9146 校が参加していたと紹介している. (図 1) QEdu の HP : <http://blog.qedu.org.br/blog/2016/03/08/o-que-o-qedu-e-os-jogos-olimpicos-e-paralimpi-cos-de-2016-tem-em-comum-a-sua-escola/2016年3月8日付> (参照日 2017年12月21日)
- 16) 「トランスフォルマ」によって得られた成果として, ブラジルの中等教育を担う学校と 17 か国を対象としたヴァーチャルな交換プロジェクト「トランスフォルマ・コネクション」を取り上げている. それぞれの国の学校にヴァーチャル留学をする機会をつくった. それは領事館を通して行われた. 日本とは 47 の学校 (リオ市のみ) が参加した. このような活動によって人々の結びつきを心から祝うものとなったと説明し, ピエール・ド・クーベルタン及び 2014 年末に IOC が発行したオリンピック・アジェンダ 2020 の提言を引き合いに出しながら, 「トランスフォルマ」の取り組みと世界平和との関わりが今後, 教育レガシーとして受け継がれることに言及している. 同上書, p.2
- 17) ヴァンデルソン氏のインタビュー調査より (調査日 2017年12月14日)
- 18) ヴァンデルソン氏のインタビュー調査より (調査日 2017年12月14日)
- 19) 沢田啓明 (2019) スポーツと汚職—ブラジル五輪委員会前会長逮捕とその後—, 笹川スポーツ財団 HP <https://www.ssf.or.jp/research/international/br/brazil/tabid/1715/Default.aspx> (参照日 2019年3月24日)
- 20) ポルヴィールは教育改革に関する情報やニュースを提供するサイト, <http://porvir.org/projeto-transforma-leva-esporte-para-todas-aulas/> (参照日 2017年12月21日)
- 21) その他の「トランスフォルマ」に関する記事は表 3 を参照.
- 22) 2015年7月17日 - ブラジル連邦政府の HP, <http://www.brasil.gov.br/educacao/2015/07/parceria-entre-rio-2016-e-mec-vai-beneficiar-mais-de-7-milhoes-de-professores> (参照日 2017年12月21日)
- 23) Tiago Miguel Patrício Ribeiro, Análise do Le-

gado Educacional: Programa Transforma Rio 2016., Centro Universitário Augusto da Motta, Rio de Janeiro,2016

- <sup>24)</sup> スポーツのメガイベントの背景には、「トランスフォルマ」プログラム参加者の認識をあらゆる視点から評価するために、以下の目標を達成することが適切であると考えられ分析されている。a) 「トランスフォルマ」の構成、教育的レガシーに基づいた測定スケールを提案・提示する。b) 「トランスフォルマ」の教育的レガシーに基づいた教員やその他教育コミュニティメンバー等の認識を測る。c) 「トランスフォルマ」のレガシーに関して、教員やその他教育コミュニティメンバー等の認識の結果を評価する。したがって、これは、「トランスフォルマ」プログラムの参加者の認識

を測定し、それらが教育的レガシーにどの程度、正または負の寄与をしているか調査する研究である。この研究によって組織の一連の推奨事項を評価し、今後の行動、戦略計画、および優れた実践の支援を可能にすると指摘されている。さらに、「トランスフォルマ」の次のエディションにおいて、運営者、体育教員、学校長、生徒、職員などが、事業の効果・効率向上の解決策を見つけるための補助、貢献となりえると考察されている。Tiago Miguel Patrício Ribeiro (2016) Análise do Legado Educacional: Programa Transforma Rio 2016., Centro Universitário Augusto da Motta, Rio de Janeiro

- <sup>25)</sup> 「インプルシオーナ」に関する記事は表5を参照。

(受理日：2019年5月27日)